

- 1 だいまは、一ぎようめに、学年・学校・組・名まえは一ぎようめに書き、文しうは三ぎようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくごとぎようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どぎようも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

(月 日 曜日)

太鼓岩での写真

一湊小学校 四年 寺田 明兔

一枚の写真を見ると、きよ年、春陽さんと白谷雲水峽に行つたことを思い出します。太鼓岩の上で、春陽さんはにこにこ笑つていて、私は少しこわそうな顔をしています。

その後、春陽さんは、鹿児島島の学校に転校してしまいました。またいつしよに登りたいなあ。

一年前、私たちは、秋の遠足で白谷雲水峽に行きました。

「太鼓岩まで登りきりたいねい。」
「そうだね、でも、ちよつと心配い。」

出発前に、私は春陽さんと話していましたが、私はずっとたい太鼓岩まで行くぞと思つていました。春陽さんは初めてなので心配そう。階段の一段目からわくわくしてきます。

「一年生のときに子鹿が出てきたよねい。」
「子鹿かわいいいよね。出るといいねい。」

一年生のときに会つた子鹿のことを思い出し

- 4、と。は、それぞれ一字にぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなししたところは、「」の中に入れてぎようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいまくは、一ぎょうめに、学年・学校・組・名まえは二ぎょうめに書き、文しようは三ぎょうめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらくしよくにぎょうをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのぎょうも三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

ました。しかし、坂がどんどん急になつてき
 ました。足がつかれてきます。息もはあはあ
 となつてきます。がんばつて歩いていたら、
 やつと休けいになりました。
 「あめなら少し食べてもいいよ。」
 と、先生が言われたので、水を飲んだ後に、
 一つぶ食べたら元気が出てきました。
 またスタートです。フリ橋のところに行く
 と、ゆれて、マツサージ器みたいに気持ちがい
 いいです。歩いて行くと、おなかかすいてき
 ました。でも、がまんがまん。やつと七本杉
 に着きました。すぐくたい木でした。
 「大きいね。この七本杉。」
 「じょう文杉は、七本杉よりも」と大きいの
 で、「どれだけ大きいのかな。」
 こけむす森では、緑がいっぱいで、今にも
 何か出てきそうです。
 つじとうげからは、もつと急になつたので、
 ロープをつかみながら登りました。すると、
 やつと大きな岩が見えました。

- 4 、と、は、それぞれ一字にかぞえて、一マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてぎょうをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)



- 1 だいてもくは、一きようめに、学年・学校・組・名まえは「一きようめに書き、文しよは「二きようめの二ばんめのマスから書きましよう。
- 2 だんらくのはじめは、一字きけて書きはじめ、だんらく「とにきようをかえましよう。
- 3 詩や文は、どのきようも「三ばんめのマスから書き、あたまをそろえましよう。

() 月 日 曜日

「やったあ、やっとちよう上に着いたねい。
 「うん。や」と着いたね。や、ほうい。
 春陽さんは、とつてもうれしそうです。下の
 ながめは、木が黄緑で小さくうっすらと見え
 ました。でも、前に行つて下ものをきこむと、
 足がたがたふるえました。もう進めません。
 春陽さんは、校長先生のインタビューに、
 「きりが出ていたけど、下が見えてきれいい。
 と答えていました。
 そこで、みんなで記念さつえい。わたしは

まだこわさがのこつていて、笑顔になれませ
 んでした。しばらくしてみんなで帰りました。
 私は、またそのときの写真を見て、春陽さ
 んへ手紙を書きました。

春陽さんへ

今、学校楽しい。三年生るときに太鼓岩に
 登つたこと、覚えてる。とつても楽しかった
 よね。私は少しこわかったけれど、でも、ま
 た今度、春陽さんといっしょに登りたいね。
 また、屋久島に来てね。まっっているよ。

- 4 、と。は、それぞれ一字にかなえて、「マスの中に書きましよう。
- 5 おはなしたところは、「」の中に入れてきようをかえて、おはなしだけを書きましよう。

(不許複製)

